

校関係では1位になればと激励し、原則として1年生が担当することになっている。昼の集合は天文台として部員が1日1回は天文台で会うことをモットーにしてお互いにはげまし合い、語らいの集いのひとときとさせている。

さて、今後の問題としてやるべき仕事を述べておきたい。その1つは、データの整理である。これは恥かしいことながら中途半端で整理されていない。これは是非整理し積み重ねてゆくことが必要です。次の問題は高校なりのしかも Nikon の8吋を駆使しての観測の結果を

「星座」に載せて発表し、横に他校と資料交換、切さたく磨の手段としてゆきたい。このような問題点、やらなくてはならない仕事を想うにつけ、痛切に感ずることは、人である。観測、研究は手順方法が先ず第一であり、それを整理して積み重ねてゆかねばうそである。努力は継続してはじめて実を結ぶのである。三日坊主は誰でもできる。やるのも人、引張ってゆくのもまた人である。宇宙は、星は、人のさしのべる手を待っている。

(駿台学園高等学校)

◀ 投稿欄 ▶

nebula と galaxy の訳語について

nebula と galaxy およびその派生語の訳語については、いつも悩まされることが多い。nebula には星雲という訳が定着していて問題は少いが、ただ nebula といった場合に銀河系内星雲なのか銀河系外星雲なのか明らかでなく、したがって、英語では galactic および extragalactic という形容詞を、日本語では銀河系内あるいは単に銀河) および銀河系外という語を前につけることになる。英語でも長い形容詞がついているのであるから、いいようなものであるけれども、いちいち銀河系外などをつけるのはやや苦痛である。単に「内星雲」および「外星雲」と呼びたい。もちろん、アンドロメダ外星雲などと余計なところに外をつける必要は全くない。

galaxy の場合は複雑である。われわれの galaxy を英

語では大文字で Galaxy と書き、訳は「銀河系」がかなり定着しているの、尊重したい。問題は小文字の galaxies である。小宇宙、島宇宙などの苦心の作があるが、別の意味への連想があったりして、時を経て定着していない。「星界」という呼称を考えてみたが、政界との混同は避けられない。そこで、「星雲界」というのも考えたが、何だか孫悟空でも出てきそうである。光、電波、X、赤外など各種望遠鏡をふりまわす悟空どもの活躍の場であるにはちがいないのだが……。こうしてみるとやはり「銀河」という名前は、定着度もかなりあって捨て難い。「銀河」についての難点は、「銀河系」との区別が素人わかりしない点にある。そこで提案: galaxies の訳語は正式には「宇宙銀河」、ただし、まぎれのない場合は単に「銀河」とする。

(東大天文学教室 海野和三郎)

1972年8月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

|                 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |
|-----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| 1               | 8, | 90 | 6  | 5, | 92 | 11 | 2, | 24 | 16 | 7, | 52 | 21 | —, | —  | 26 | 6,  | 57  |
| 2               | 7, | 92 | 7  | 4, | 54 | 12 | 5, | 28 | 17 | 6, | 48 | 22 | —, | —  | 27 | 9,  | 60  |
| 3               | 6, | 82 | 8  | 4, | 42 | 13 | 8, | 31 | 18 | 7, | 49 | 23 | 6, | 76 | 28 | 9,  | 77  |
| 4               | 5, | 89 | 9  | 4, | 53 | 14 | 4, | 14 | 19 | 4, | 41 | 24 | 8, | 67 | 29 | 14, | 95  |
| 5               | 7, | 92 | 10 | 5, | 29 | 15 | 6, | 29 | 20 | 4, | 28 | 25 | 5, | 45 | 30 | 14, | 133 |
| (相対数月平均値: 92.4) |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 31 | 13, | 131 |

昭和47年9月20日

印刷発行

定価 175 円

編集兼発行人

印刷所

発行所

〒181 東京都三鷹市東京天文台内

〒112 東京都文京区水道2-7-5

〒181 東京都三鷹市東京天文台内

電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359

森本雅樹

啓文堂松本印刷

社団法人日本天文学会

振替口座東京 13595